

# 根性！根性！ど根性！！



歌詞を確かめてみる

「思いこんだら 試練の道を行くが男のど根性 真ッ赤に燃える王者のしるし 巨人の星をつかむまで 血の汗を流せ 涙をふくなく 行け行け 飛雄馬 どんと行けッ」

「コートの外では 平気なノリで ポールがうなる 胸がはずむ ワーレー シブ トス パイク ワン ツー ワン ツー アタック」

「ただ 涙が出ちゃう 女の子だもん」

いや、書いてて随分懐かしいです。これは「巨人の星」の主題歌です。私も、物心がついた時、夕方に再放送されるこのアニメをよく見たものです。このアニメが作られた時は、読売ジャイアンツがV9（九シーズン連続優勝）を達成している時で、長嶋選手、王選手という国民的なスーパースターが活躍していて、子供たちはみんな野球ファンだった時代でした。そして、一九六四年の東京オリンピックで優勝した女子バレーボールチームは「東洋の魔女」などと外国から恐れられ、そしてできたのがこのアニメ。ふと思いついて、インターネットで主題歌の歌詞を確認してみ

賢い「ど根性」を続けていくことで、必ず成長できるはず。



と、再放送を見ていた自分を思い出してしまいました。しかし、あらためて歌詞を見てみると凄いですね。「ど根性」とは良いこととして、「血の汗」とは良いことか？ しかも、そのような「血の汗」なるものが流れれば、すぐにでも治療せねばならぬのですが、それすら省みず、涙さえもふいてはならぬとは……昔は当たり前に口ずさんでいたものが、あらためてその歌詞の過激さに触れ、ちよつとびつくりしています。

東洋の魔女の女子バレーボールチーム。当時、それはそれは過酷な練習だったそうで、「苦しくったって、悲しくったって」というフレーズから始まる歌詞は、それをつぶさに表現しているのだろかな、と思います。やはり「ど根性」だったのだと思います。

私が中学と高校の途中で、野球をやってた時も、まだ、「ど根性」感が残っていたような気がします。あくまで気がするだけなのですが……例えば、当然ですが、今では殊の外「脱水症状」を気にします。しかし、当時は、「ばてるから」という理由で、水分補給はさせてもらえませんでした。練習の合間に少しは許可された気もしますが……いかに、目を盗んで水分補給するか（!!）どうやっ

てサボって水を飲むか）に随分と思案を巡らせたことが無かったかという、ウソになります。

いつまで「ど根性」な感じが続いたのだろうか？ そんなことを考えてみました。ふと思いついたのは「リゲイン（栄養ドリンク）のCMです。二十四時間戦えますか」というフレーズは聞いたことがあるかと思いますが、あれはいつだったか……、というところで調べてみると、一九八八年でした。バブル期真っただ中のビジネスマンも「ど根性」だったということなのでしょう。

時代は移り、この「ど根性」も変わってきたと思います。「過労死」という言葉が世に出始めたのが一九八八年。その時、「働き過ぎでは死なない」と、政府も医学会もとり合わなかったようです。ですが、その後「過労死」が社会問題と認識され始め、現在に至っています。このことから考えても、一九八八年あたりから徐々に、やみくもな感じの「ど根性」は変化を始めたような気がします。

さて、二〇一七年の今の私が「ど根性」という言葉を聞いて何となく思うか。自分に問いかけてみると、「時代錯誤」「非科学的」「精神論」「人道的に問題のある部分もある……」、という言葉が頭に浮かびました。あまり

良いイメージではありません。しかし、だからと言って「ど根性」が「悪」なのか？ と聞かれると、「ど根性」は「悪」ではなく、むしろ「推奨」されるべきものであるというのが率直な感想です。

なんだなんだ、この矛盾した感じは？ ということで、自分の中のマイナスイメージの原因を突き止めてみますと、情緒、感情ばかりが優先され、科学的な思考が排除されることは、自分としてはとても嫌いです。また、「勝つ」という目的があり、そのためには強いメンタルが必要で、よくよく考えられた上での「精神強化プログラム」なら分かるのですが、何も考えず、目的意識すらばらばらした指導者の振りかざす「精神論」は嫌いです。さらに、それが「人道的にどうなの？」という領域まで、差し掛かると、もうちょっと手が震えてしまいます。プルプルと。

一方で、「ど根性」は「推奨」されるべきだと考える理由を考えてみますと（何かややこしくてすみません）、これは単純で、「成長するには苦しみ、痛みは必ず必要だ」と考えているからです。

筋トレなんかで考えると

え、ベンチプレスで五〇kgを持ち上げるので五〇kgが「重いのは嫌だから」と言つて、十kgの負荷で練習しても意味がありません。自分の限界を突破することを意識して、苦しいけど五〇kg以上の負荷をかけることをしなければなりません。この時、必ず、何らかの形で「苦しみ」「痛み」は生じます。その「苦しみ」「痛み」に向かう心意気を「ど根性」と表現したい。

しかし、「昨日五〇kg上げたんやから今日は五十五kgを上げろ。それができたら明日は六〇kgな」というのは、考えなしの「ど根性」です。自分の限界を超えたところから「苦しみ」「痛み」が生じた場合、必ず肉体、精神は休めるべきだと思います。今日できたから明日、明日できたから明日、では身も心も持ちません。

今の世の中、会社にしてもそのようなのですが、「重圧をかけたら辞めていくから、怒ったり叱ったりせよ、社員を褒めろ」と言われているとよく耳にするようになりまして、教育においてもそんな感じの風潮が見受けられるかな？ と、個人的に感じていました。確かに「褒めて伸ばす」というのは大事なことです。が、「褒められなければ伸びない」というのは私には信じがたい。むしろ、私としてはちよつと心配です。それに、どう考えても、伸びるには自分の限界をちよつと超える程度の負荷が必要なんです。大切なのは負荷をかけないことではなく、最大負荷をかけた後に、その負荷をかけて痛んだ箇所は休めるということとです。限界を超えれば、ちよつと休み、また新たな限界を超えてちよつと休み……。成長は極端に言ってしまうと、この繰り返しで実現するものだと思います。

これからの世界を生き抜くには、どう考えてみても、自分の限界を高め続けなければなりません。そのために、常に自分に最大の負荷をかけ続けることのできる、賢い「ど根性」が必要だと思います。

## 中学3年生夏期100時間特訓

7月21日(金)～8月30日(水) ☆中1・2年生対象夏特訓も実施！

集団授業と個別受講システムにより、基礎力の徹底・弱点補強をはかるとともに、応用発展問題にひるまない本物の力を養成します。さらに、受験生としての学習習慣を身につけられるよう指導します。香川県統一模擬試験も実施します。

※定員になり次第締め切らせていただきます。(詳しいスケジュールは直接お問い合わせください。)

～昨年100時間特訓を受講した先輩の感想～

今年もやります!!

受講生募集中!

とても力が付いたと思う。この調子でどんどん学力をのばし、診断テストで目標点を超えるよう頑張りたい。苦手教科や分野を克服し、応用力も鍛えることができた。(S・Tさん)

苦手だった理科の光、電流のところができるようになった。集中力がついた。家でいたらゴロゴロして勉強できなかったと思うけど、夏期講習で長時間勉強できてよかった。(S・Rさん)

勉強する時間をとても増やすことができた。勉強しようという気持ちになることができた。勉強する時間を沢山とることができた。家ではこのようなことはできなかったと思うし、この夏期特訓はとても自分のためになった。これからも勉強時間を沢山とり、頑張っていきたい。(T・Nさん)

夏期講習で復習した問題が学校のテストに出たとき、解くことができたので嬉しかった。英語ではこれまでの復習ができ、思い出することができた。数学は難しい問題の解き方が分かってテストも少しできるようになった。作文で注意されたところはしっかり意識して書けるようになった。これから沢山テストがあるけど、習ったことを思い出して高得点を狙っていきたい。(T・Mさん)

家ではなかなかできない勉強も塾にきてしっかり勉強することができた。少しは家でできるようになったのでこの勉強の習慣を続けて少しずつ努力したいと思う。英語も数学もしっかりと基礎を固められたので、これからも勉強を頑張つて発展した問題も解けるようにしたい。(D・Hさん)

## 片桐英数塾からのお知らせ

天神教室・坂本教室の7月のお休みは、  
2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日)の日曜りと  
28日(金)～31日(月)までお休みとなります。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いいたします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

メール登録をお願いします。

HPアドレス <http://www.katagirijuku.com>

メールアドレス [katagirijuku@docomo.ne.jp](mailto:katagirijuku@docomo.ne.jp)

QRコードからHPにアクセスすることができます。

